

# エンジョイ！ ミュージック&ライフ！！

## あの人この人こんなひと

今回はお題でお願いしました。  
コロナで自粛期間中、学校にも遊びにも行けなかった中、  
どのように過ごしたか。  
工夫したことや楽しかったことなどがテーマです。  
おうちの方からの一言もいただきました。



ピアノレッスン生  
山川天舞 (そら) ちゃん  
&  
咲幸 (さき) ちゃん

小学校1年生と幼児服を着ていた、小さかったふたり。もう中2と小6。こんなに大きくなりました。とっても仲良し&可愛いご姉妹です。  
そらちゃんが去年発表会で弾いた「未来予想図Ⅱ」は難易度の高い曲でしたが、猛練習して見事な演奏を披露しました。  
さきちゃんは数年前、楽譜の読み方が分かったとたん、いきなりの快進撃！  
上速度がぐっと上がりました。

### そらちゃん

除菌シートを使って消毒をするなど工夫をしました。  
コロナで学校が休みになっていたの、夜遅くまで起きていたり、朝早く起きなくて良かったりした事が嬉しかったです。  
いつもは出来ない工作など、時間のかかることも休み中に出来て楽しかったです。



### さきちゃん



- ★工夫  
今まで以上に、  
手を細かいところまで洗った。
- ★楽しかったこと  
猫を、今までよりたくさんでまわした。

### ご家族様より

長いお休みで、家の中だけでも時間に縛られることなく  
楽しく過ごせたので良かったです。

## 7月号メニュー

あの人紹介：ピアノレッスン生の女の子  
さきちゃん/そらちゃん/ののかちゃん  
夏だから・・・とある公演のキョーフのヒトマク  
おまけ：怖いお話とりぴあ

## ピアノレッスン生 上田ののかちゃん



小学2年生のおわりに、  
以前住んでいたところから  
体験レッスンに来てくれた、ののかちゃん。  
とってもピアノが上手なんです。  
お引越ししてすぐ、レッスンは開始となりましたが、  
残念ながら新しい学校は自粛で通えず・・・。  
やっと解除になり、お友達も出来てよかったね！！  
明るく可愛いののかちゃんとのレッスンが、  
先生はいつも楽しくて。  
「鬼滅の刃」が大好きで、発表会でも「紅蓮花」を演奏します。  
(発表会が延期にならない事を祈るばかりです)



コロナで自しゅくしている間にたくさんの事を  
しました。  
たとえば本読み、家のたな作り、ざっ草ぬき、  
ピアノの練習など、家でできる事がたくさんあ  
りました。家族でカードゲームをしたりもしま  
した。だけど、友だちとあそぶのが1番楽しい  
と思いました。

### ご家族様より

こちらへ越して来て、すぐに自粛生活が始まり、学校へ通うことが出来ず、  
お友達を作る間もなく新しい生活がスタートすることで、親子共々、大丈夫  
かなあと、最初のころは心配していたのですが、娘の前向きな姿を見ている  
と、これも有りかなあと思える様になり、一緒に出来る事、楽しめる事を探  
して毎日過ごしていました。  
今は学校に通える様になり、毎日お友達と過ごせることを心から喜んでいる  
ようです。



カウンセマイみすと

うっちーせんせいの原稿が4月から行方不明となっていることが分かりました。  
上條音楽教室あてメールのお届け中行方が分からなくなった模様。  
うっちーせんせいは、良くあることです(笑)と笑顔で第2弾を執筆中。  
ありがとうございます！

## とある公演の

### キョーフのヒトマク

ああ、あの日は謎だった！

#### 🙄 シーンその1

昔むかしのその・・・いや、そんなに昔ではない。  
としゃ講師もまり講師も  
おにいさん、おねえさんだったころのお話。  
とある事務所で、  
子供のためのコンサートのメンバーの一員として  
お仕事をしていました。

あれは、とある場所での公演の出来事。

まり講師含むボーカルメンバーとプロデューサーは  
電車で会場入りでスタンバイ完了。

としゃ講師含むバンド・音響・照明スタッフは  
機材と共に何台かの車で会場入りの予定が・・・

そろそろリハーサル時間だってえのに

**バンドも音響も照明も  
遅刻かつ！！**

プロデューサー女史怒りマックス直前・・・

#### 🙄 シーンその2

車組、ほぼ一斉にどやどやと会場に。  
口々にこんなことを言いつつやって来ました。

「全然着かなかったよなあ！」

「おんなじ所をぐるぐる回ってさあ！」

「ここの楽屋入りたくないなあ・・・」

**「はあ！？ どーでもいいから  
さっさと仕込みしてっ！！」**

(怒りのP女史)

#### 🙄 シーンその3

遅刻組、その後無言で必死で仕込み、何とか間に合い、  
無事本番を終えました。

お客様の笑顔もたくさん。歌声もたくさん。

ステージが上手くいくと、本当に嬉しいものです。

みんなで舞台上の片づけをしていた時、音響さん、照明  
さんがそばでこんな会話を始めました。

「調光室(ステージの照明を操作する部屋。この会場は  
調光室で照明&音響操作が出来るようになっていた。二  
人は同じ部屋にいたのです)の窓の向こうから人が覗き  
こんでたよな・・・！！」

「お前も見たか。ありえないぜ・・・」

会話を聞きかじった遅刻組のバンドメンバーが  
「ありえないって、何が？」と聞きます。

「かくかくしかじか、人が横切って・・・」

**あそこの窓をだよっ！！**

照明さんが指さしたのは・・・

舞台を見下ろす中2階の調光室。

あそこを覗くには足が5～6メートル長くないとちやわつて  
高さの窓なのでした。

「初めは、お客さんが帰るのに横切ったと思ったんだ。  
でも、中2階だって気づいて冷汗が出たぜ」

「俺なんか普通に頭下げて挨拶しちゃったよ」

遅刻組の低い声での会話が続きます。

「やっばここおかしいぜ。来るときも・・・同じところを  
ぐるぐる回って、全然到着しなかったしな」

「おう、間に合ったのが奇跡だぜ」

遅刻組の音響・照明・バンドメンバーが

**ぞわっ！！**

としている横で・・・

ステージの出来に上機嫌のボーカル組とP女史は  
ほとんど「**聞いちゃーいない状態**」  
なのでした。

口先で軽い相づちを打ちます。

「へえ～、そおなんだ～」

「すごいねそりゃー」

「おっと、たいへんだったね～」

**「んじゃ。おつかれさまでしたあ😊」**

## ♥エピローグ

全国各地で公演して、楽しかったコンサート。

ちなみに。

今はもう無い青山こどもの城円形劇場でも

やったんですよ。

あれからもう何年経つのでしょうか。

みんな若かった！

舞台を創り上げる為に、必死で練習しました。

稽古場で一日の殆どの時間を過ごし、

時にはぶつかり、

悔しい思いも悲しい思いもしました。

でも、それ以上に喜びの大きい時間でした。

そして素晴らしいメンバーに恵まれました。

公演にいらして下さったお客様にも感謝でいっぱいです。

あの時の小さなお子さんたちは、もう立派な大人なんですね。

そうそう、

バンド・照明・音響さんたちはというと。

帰りはぐるぐる回ることなくすんなり帰れました。

恐怖体験はあの会場ただ1回だけだったようです。

ボーカルメンバーのまり講師は、あの時の彼らの恐怖体験を、

右の耳から左の耳へと聞き流していたのですが、

今頃になって、ふっと思い出されるのは・・・。

それは・・・やっぱり・・・

夏だから・・・かな。



## おまけ 怖いお話とりびあ

上手な語り手が演じると、体温が2～3度下がると言われています。

夏の暑い夜に怪談話でも、というのは日本独特の文化らしいです。

江戸時代、夏の暑い盛りには歌舞伎はお休み（大御所たちは夏休み～）

していましたが、若手の育成や場を踏ます意味で（要するに、舞台も空いてるし、この際実践あるのみ！）、大御所と同じような演目は辞めて、怖い話でもやるか、というのが「夏の怪談話」のはじまり、という事だそうですよ。